

えほんまくらのそうし
絵本枕草子

くらげのほね

ある日、^ひ隆家^{たかいえ}が



定^{ひょうじ}のやうに
あむびてくまもつた



「ほくね、

ほね

『すばらしい骨』

をみつけたんだ」

たかいえ

隆家はうれしそうに

ひさこ

定子にいらました。

だからね、
この骨をほね扇あふぎにして
おねえちゃんに
さあもうっただいじやう……



それをまじこして、
定子ていしもさうさうして。
でも……

へんな紙かみをほって
だいなしになったら
イヤなんだあ



骨ほねだらから

「あのね、
やっこも
まじきいな



「でもね
骨とおなじくらい
すてきな紙が
みつからないの」



「そんなに」

おどくに骨なの？」

みんながね

どこをみてもすご〜い

みたことない
すごい骨だなあ
ほね



とか



とか
いうんだよ

そりゃー……



「では扇おうぎの骨ほねじゃなくてくらげの骨ほねみたいですね」といいます。

ニヤリ……



するや定子ていしのうしろで話はなしをきいていた清少納言せいしょうなごんが



そっくわ、

せいしょうなごん

清少納言は

このでございませう

じぶん

自分の日記に

じっき

か書くのでした。



おしまい

おわりに

このおはなしは

清少納言（せいしょうなごん）の枕草子

（まくらのそうし）98段（だん）を

もとにしたおはなしだよ

古典（こてん）の授業（じゅぎょう）

でならうから、おたのしみに！

参考文献

校訂・訳者 松尾聡・永井和子

『日本の古典をよむ⑧ 枕草子』

2007年12月1日

小学館

提供

梅花web出版

2024 7月11日

「絵本枕草子 くらげのほね」

くにもと